

枚方市 まちづくりワークショップだより

第2回

2014年2月
発行

平成26年1月16日(木)に、第5次枚方市総合計画の策定に向けて、「第2回枚方市まちづくりワークショップ」を開催しました。

第2回は市民等23名の参加で、4つの班に分かれて「環境を守り育てるために」をテーマに話し合い、様々な意見・提案が出されました。

【当日の流れ】

- ◇前回のワークショップだよりの確認
- ◇ワークショップの進め方の説明
- ◇ワークショップ(班別)
 - テーマ「環境を守り育てるために」
 - ・班ごとに意見を出し合う
 - ・各班の発表を行い、全体で共有する
- ◇今後の進め方の確認



※左からA班、B班、C班、D班のワークショップのようす

各班から出された主な意見【 テーマ「環境を守り育てるために」 】

○「緑が豊かなまち」に ～ 都市環境とのバランスが大切 ～

豊かな緑など自然を大切にすべきとの意見が多く出され、自然に対し過度な保護をせず、生物多様性のあるまちを目指すべきとの意見がありました。

その中で、自然と都市環境・安全面とのバランス、企業立地と住環境との調和を図りながら進めることが必要との意見が出されました。

○ごみを減らし「美しい環境を保つまち」に

地域での美化活動等による道路・公園などの清掃の充実や街路樹の剪定のほか、ポイ捨てや歩きタバコの防止強化、商業施設へのレジ袋等の総量規制など、美しい環境を保つための仕組みが必要との意見が出されました。

○「環境教育」の充実を

正しい環境教育を行うことが重要との意見が共通していました。子どもだけでなく、大人や企業も含め環境意識の向上が必要で、担い手としては、行政のほか、地域や学生も参加し、一人ひとりが情報発信者となるべきとの意見がありました。

また、公園や緑地でのイベントなどで世代間交流を図りながら、環境に対する理解を深めていくべきとの意見が出されました。

○「行政と地域の連携」による取り組みを

環境保全の取り組みには、行政と地域の連携が欠かせないとの意見が共通していました。市は取り組み内容やその効果を市民にわかりやすくPRし、市民は省エネなど環境に負荷をかけない暮らしを意識するなど、互いが両輪となって進めていくことが重要との意見が出されました。

次のページより、各班(A～D班)で出された意見・提案内容の詳細です。

A 班

テーマ『環境を守り育てるために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと	自分たちでできそうなこと
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 緑がいっぱいあるまち </div>	○植林・植樹 ○森林保全 *里山オーナー制度の導入	○間伐 ○緑化ファイナンス *市民がお金を出し合うトラスト運動のようなもの
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 生物多様性のあるまち </div> <p>*もっと昆虫を増やす *天野川、穂谷川を大切に する風土が育ち、ホタル がすめるような河川にな ればよい</p>	○ビオトープの設置 *ボール遊びができない公園が多いので、いっそのこと 大きなビオトープ公園にする ○産民学官の協力による自然共生の研究 *河川の開発などに自然工法管理を導入 ○生態系マップ・緑化マップ *時系列でまとめる *生態系の分布図を作る	○河川の清掃
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 美しい環境を保つまち </div> <p>*公園などの手入れが行 われている</p>	○道路や公園などの清掃の頻度を増やす ○街路樹の剪定 *住宅地の道路幅の確保（庭木の剪定なども）	○地域で美化運動・活 動 *校区の様々な組織が横断的 に行う
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 資源の循環を 意識して暮ら すまち </div> <p>*資源循環の実現に向け て意識の高い市民が多 い、環境を大切にすま ち</p>	○水の循環等についての啓発 *水循環の行程表を作る（自分が出すごみや排水がどう なるか等の啓発） ○資源循環の検討 *バイオマス発電の研究・検討 *太陽光・風力発電施設の設置場所がない *ごみの分別方法の精度を高める(特に生ごみ) ○回収・分別拠点をつくる	○ごみを減らす ○ごみの分別 *自然資源の循環 ○生活等が不便でも環 境を守る
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; background-color: #333; color: white;"> 共通項目 </div> <p>○環境教育 *産民学官の協力で *特に大人への環境教育 *環境活動に対する税制優遇など</p>	○環境に関わるボラン ティアを増やす

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「緑がいっぱいあるまち」「生物多様性のあるまち」「美しい環境を保つまち」「循環を意識して暮らすまち」があげられ、特に、生物多様性や資源循環については関心が高かった。
- 緑や生物多様性に必要なこととして、植林・植樹、森林保全、ビオトープの設置などがあげられたほか、「生態系マップ・緑化マップ」といった市の動植物の30年程度前からの移り変わりを示すようなものを作ってほしいとの意見があった。
- 美しいまちに向けては、道路や公園などの清掃の充実や街路樹の剪定が必要との意見が出された。
- 循環を意識することについては、「水」の循環等の啓発や、特にバイオマスに関して糞尿やたい肥などの活用が必要との意見があった。
- そのうち自分たちでできそうなこととして、間伐や緑化のトラスト運動、川の掃除、ごみの抑制、ボランティアの増加のほか、地域の美化運動では各組織が横断的に活動できればとの意見が出された。
- 話し合いの中で、全てに通じて「環境教育」が重要だとまとまった。特に、子どもたちへの教育がなされても、手本となるべき大人が理解していないところが課題であるとの意見でまとまった。

こうなったらいいな	そのために必要なこと	自分たちでできそうなこと
<p>過度な保護のない自然</p> <p>*淀川の護岸工事、景観の良いところに柵を作るなど、過度に整備されていないか</p> <p>市民の集まる場の増加</p> <p>*公園など、市民が集まりともに楽しめる場の増加</p> <p>公園や緑地を核とした世代間交流</p> <p>*公園や緑地を核に地域の多様な人が交流できる空間づくり *遺跡、公園、里山などを市民の憩いの場、散歩やリフレッシュの場として活用</p> <p>環境教育</p> <p>*次世代において自然環境保全に取り組める枚方市</p>	<p>共通項目</p> <p>○環境ボランティアの養成 *公園や街路樹などのごみの管理を誰が担うか。自治会への参加率が低く、高齢者に負担がかかっている。若者の参加が必要 *ボランティアを募るなども必要</p> <p>○住民参加（子どもから大人まで） *住民自治の捉え方に違いがあり、地域差がある *住民の意向について意見交換する場、子どもたちの声を含め住民の意見を聞く場が必要</p> <p>○公園利用の規制緩和 *住民の自由な利用</p> <p>○枚方市主催のイベント（環境まつりなど）の実施 *「環境まつり」など、環境の理解を深めるイベントの開催 *自発的な参加を促すため、地域ごとのリーダー的な存在が声を上げる *駅伝大会、もちつき、ゲームなどの実施</p> <p>○地域が学校へ出向き、連携した環境教育 ○正しい環境教育（学校から社会へ） *環境教育を授業で取り上げる（道徳など総合的な時間） *地域のこと、また、そこで何をすればいいのか知ってもらう。</p> <p>○縦割り行政の枠を外すこと</p> <p>○環境基本条例・計画の改正等に市民の意見を反映</p>	<p>○環境活動をしている団体が中心になって盛り上げる</p> <p>○環境とは何かということを理解する場に参画する</p> <p>○地域や学生の参加 *小中学生への教育</p> <p>○忍耐強く行政へ働きかける。そのために市民も力（知識）をつける</p>

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「過度な保護のない自然」「市民の集まる場の増加」「公園や緑地を核とした世代間交流」「環境教育」があげられ、特に、世代間交流や環境教育について関心が高かった。
- そのために必要なこととしては、護岸工事など過度な保護をせず市民意見を踏まえ進めること、地域の集まりに公園などを利用しやすくすること、世代間交流を進めるため、祭りや公園の管理などで子どもから大人までが参加し意見交換する場が必要との意見があった。
- 市民の環境意識を高めるためには、まずは市がリードして環境をテーマにしたイベントを実施し、そこに環境活動をしている団体が連携することで、市民の自発的な参加を促す流れが必要との意見が出された。
- 環境教育については、次世代につなげるため正しい教育を授業で取り上げることが大事で、学生や地域の参画により進めていくことが必要との意見があった。
- 話し合いの中で、環境施策を含めた良いまちづくりを進めるためには、忍耐強く行政へ働きかけていくことが大事で、そのためにも市民は勉強していくことが必要だとまとまった。また、このワークショップでの意見を環境基本条例・計画に反映してほしいとの意見でまとまった。

C 班

テーマ『環境を守り育てるために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと	自分たちでできそうなこと
<p>環境に負荷をかけない暮らしを意識する市民が増える</p> <p>スマートシティの実現</p> <p>*地球温暖化のブレーキになる</p>	<p>○エネルギー消費の低減（省エネルギー化） *省エネルギー化と自然エネルギーの活用 *1人1人のエネルギー消費の低減</p> <p>○子どもの時から環境を学べる場づくり *そのための要員づくりも必要 *学校の先生だけでなく地域も一緒に</p>	<p>【第一歩として】</p> <p>○みんなで省エネに取り組む特別日の設定 *電気・ガス・エアコンの使用減、エレベーターの使用や車移動を控える等（病院などは別）</p> <p>○環境意識を持つ市民増加に向けた情報発信</p> <p>○自家発電を増やす</p>
<p>市民全体が環境保全活動に参加するまち</p> <p>*すべての主体が環境保全活動に参加するまち（人材育成）</p>		<p>○学生が引率して子どもを自然のある場所に連れて行く</p> <p>○市の講師登録制度に参加する</p> <p>○個人的にも環境について子どもたちに教える</p> <p>○学校のまわりのクリーンアップを進める（PTA）</p>
<p>ポイ捨てや歩きタバコのないまち</p> <p>*美化意識の向上</p>	<p>○タバコに対する罰金制度づくり *他の地域の事例のようにタバコに対する罰則を設ける。ただし、マナー違反は一部の喫煙者であること、また、どれだけ実行するかなど難しい点もある *喫煙場所が少ないので、スペースをつくる</p>	<p>○携帯灰皿を持つ</p>
<p>企業立地と住環境が調和したまち</p> <p>*企業立地と住環境が調和した、住みやすいまち。それが枚方市の特徴にもなる。</p>	<p>○企業への環境保全支援 *特に小規模企業に対して支援</p> <p>○環境のカウンセラー制度の創出 *行政やNPOなど様々な主体による支援</p>	<p>○公共の制度（カウンセラー制度など）に市民が積極的に参加</p>
	<p>共通項目</p> <p>○情報発信力の強化 *いろいろな手法や媒体での発信</p> <p>○啓発活動の取り組み</p>	<p>○自分たちが情報発信者となる</p> <p>○海外の事例等を勉強</p> <p>○情報を取りに行く</p>

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「環境に負荷をかけない市民が増える」「市民全体が環境保全活動に参加するまち」「ポイ捨てや歩きタバコのないまち」「企業の立地と住環境が調和したまち」があげられた。
- 環境に負荷をかけない市民を増やすためには、1人1人がエネルギー消費を低減することが重要で、第一歩として、月に1度など省エネの「特別な日」を決めることのほか、自家発電の増加などの意見があった。
- 市民の環境保全活動への参加に向けては、小さい頃から環境を学べる場が必要であり、学校だけでなく、学生が子どもを自然の場に連れて行くことや市の講師登録制度など、地域が一緒に進めるべきとの意見があった。
- ポイ捨てなどの防止に向けては、罰金制度づくりやタバコを吸う場所をつくるが必要との意見があり、自分たちでできそうなこととしては、携帯灰皿を持つなどの取り組みがあげられた。
- 企業と住環境の調和に必要なこととしては、企業の環境保全の取り組みに対する支援やカウンセラー制度の創出などがあげられ、調和するまちが形成されれば、それが枚方市の特徴になるのではないかとの意見があった。
- 全ての取り組みに共通して、口コミ、ピラ、ネットなどによる「情報発信力の強化」が重要で、自分たちも情報発信者となりながら啓発活動に取り組んでいくことが重要だとまとまった。

D 班

テーマ『環境を守り育てるために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと	自分たちでできそうなこと
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> バランスのよい緑 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 自然環境保護 </div> <p>*緑豊かなまちになればよい *守ることと育てることが大切 *自然と人工物のバランスの良いまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○緑化指数の目標設定 ○緑化推進 <ul style="list-style-type: none"> *枚方市のシンボルである市の木「柳」や市の花「桜」を増やす（育てる） *シルバー人材の活用など ○里山保全 ○公有地の有効活用 <ul style="list-style-type: none"> *緑などを身近に感じられる場に活用 *土のある場所を残す ○公共井戸の開削 ○河川の清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ○緑のカーテン（ゴーヤなど）の設置 ○市のコンテストなどへ参加 ○緑の団体へ寄付 ○緑のポイントをつくり、環境保全へ寄与
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> ごみ問題の解決 </div> <p>*ごみ減量策が強化されたまち *ごみ問題の教育を推進し、まちをきれいにするための住民意識の高揚を図る</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> ごみを減らす対策 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ごみを減らすための教育 ○分別して処理されたごみの行方を認知 ○大型商業施設へのビニール袋消費枠設定（課税） ○レジ袋の総量規制 ○自動販売機の設置制限義務強化（条例など） ○市民の意識改革 <ul style="list-style-type: none"> *住民1人1人の意識向上が必要 *美化意識の向上による景観の維持 	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物を少なくする ○家庭教育をする ○地域で清掃 ○マイバックを持つ ○自動販売機を利用しない ○マイポットの持参
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 行政と市民の連携 </div> <p>*市民に分かりやすい広報活動 *市民の生活行動と市の政策が密に関係すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「政策」－「市民行動」－「効果」の連関を分かりやすくする広報 ○市の窓口（連絡先）の明確化 <ul style="list-style-type: none"> *公園利用に関してなど ○枚方市の特徴ある施策への市民の理解支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○行政と市民の両輪で引っ張っていく（協働）
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> エネルギー問題 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○コンビニの営業時間総量規制 	

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「バランスのよい緑（自然環境保護）」「ごみ問題の解決」「行政と市民の連携」があげられた。
- バランスのよい緑については、緑豊かなまちになれば良いとの意見とともに、自然と人工物、また、自然と安全のバランスがとれたまちづくりが大切との意見があった。必要なこととしては、緑化指数の目標設定や市のシンボルの木「柳」、花「桜」などを増やすこと、里山の保全などがあげられた。自分たちとしては、緑のカーテンなど様々な取り組みへの参加、取り組みが難しい場合は、環境団体へ寄付するなどの意見が出された。
- ごみ問題の解決に向けては、地域でごみの総量を減らすため、環境教育の充実のほか、レジ袋の総量規制や、自動販売機の設置制限の強化などの提案が出された。市民の意識改革も必要であり、家庭での教育や、マイバック・マイポットの持参などの意見があった。
- 行政と市民の連携については、市の政策が市民の生活・行動につながり、効果となって表れていく流れをわかりやすく市民に伝えることで理解を深めていくことが必要で、互いが両輪となって進めていくことが重要だとまとまった。
- そのほか、エネルギー問題として、コンビニの営業時間の総量規制が必要などの意見が出された。



※上段左からA班、B班、下段左からC班、D班のワークショップの発表内容

ふりかえりシートより

主な意見・感想を紹介します。

[意見・感想]

- テーマが大きく漠然としていて難しかった。抽象的、一般的な話し合いになったと感じた。
- 前回よりもさらに打ち解けて活発な意見交換ができた。
- 個人にできることとできないことを洗い出し、個人でできないことのうち、行政のできることを見つけ出すところまでまとめていく必要がある。
- 啓発活動が大事だと思うが、「自分たちでできそうなこと」について意見を出すのに苦労した。
- 全体的にいろいろな角度からの発想・アイデア・意見が出されて良かった。
- このようなワークショップには子どもや障がいのある人、シングルマザー・シングルファーザーなど多様な方、応募しづらい方も参加できる仕組みがほしい。
- いろいろな人の意見を短時間に理解しまとめることは非常に難しかった。
- 年代や性別の異なるメンバーの方々と意見を交わしていくうちに、自分なりのイメージが明確になって大変良かった。

- 環境保護の維持・向上に係る投資を惜しまないまちづくりが、住みたい・住み続けたい、誇れるまちへとつながるのではないかと感じた。
- 参加者の意見が練られた上でまとめていくという方法でないと消化不良だ。
- 環境保全の上で、良好な水の確保は極めて大切である。
- 「環境」について物理的なことを考えていたが、話し合いを進める中で、市民が心の豊かさを持って暮らすための社会的、精神的なことも環境づくりではないかと感じた。
- 意見交換の中で出た「環境教育」について、どういった教育が必要かより深く意見を交わすことができればよいと思った。

【編集・発行】枚方市 政策企画部企画課

TEL : 841-1221 FAX : 846-5341

Email : kikaku@city.hirakata.osaka.jp